

発行 豊中市教育委員会  
1996年3月29日発行  
編集 社会教育課文化財保護係  
印刷 共同印刷株式会社  
写真提供 羽曳野市教育委員会  
(財)大阪文化財調査研究センター



とよなか文化財ブックレットNo.5 通史編V



# 豪族の時代

— 古墳と倉からみた とよなかの古墳時代 —

豊中市教育委員会



やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた

右の写真を見て。前にも見たことがあるわよね。  
うん。たしか弥生時代終りころ（約一八〇〇年前）のお墓だったね。そう、このお墓は弥生時代としてはとても大きいから、このお墓に埋められた人は、ムラをしたがえた有力者だと考えられているわ。でも、古墳のほうがもっと大きいけど。  
だから、弥生時代の有力者が、自分のムラだけでなく、多くのムラをまとめて、とよなかを治める豪族になったと言われているわ。ふくん、古墳は豪族の墓なんだ。そういうこと。  
たくさんさんのムラをまとめる時には、きつと争いもあったんだろうな。そうね。古墳からは鏡などの宝物といっしょに、たくさんさんの武器も見つかっているわ。  
お宝を見るのは楽しそうだけど、武器はぶっそうだな。けんた君たら、おくびょうね。



弥生時代の有力者の墓  
服部遺跡 1号墓（全長18m）  
（服部本町5丁目所在）

# 豪族の誕生

やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた

けんた君、遺跡（いせき）といったら、まず何を思いうかべる？  
そうだなー。やっぱり古墳（こくふん）かな。でーんと山のように大きくて、目だつしね。そうね。古墳って大きいわよね。  
とよなかにも古墳はあるの？  
全国各地にあるわよ。もちろん、とよなかにもね。  
ふーん。でも、あまり見かけないね。そうね。もともととよなかには何十基もあったのだけど、ほとんどはつぶされたりして、なくなってしまったの。そいつは、残念！  
でも、今でも大きな古墳が5つも残っているし、発掘（はつくわ）で新しく見つかった古墳も多いのよ。  
へえー。じゃあ、とよなかの古墳に、どんな人が葬（はな）られたんだろう。  
それをこれから調べてみましょう。  
古墳時代（こくふんじだい）（約一七〇〇〜一三五〇年前）って弥生時代（やよいじだい）のすぐ後の時代だよ。そうよ。  
弥生時代にもいろいろなお墓があったけど、古墳とはぜんぜん違うわね。



豪族の墓・古墳

手前が前方後円墳の御獅子塚古墳（全長約55m・約1550年前・中桜塚4丁目所在）  
奥は円墳の大塚古墳（直径約56m・約1600年前・南桜塚2丁目所在）



# 古墳を造る

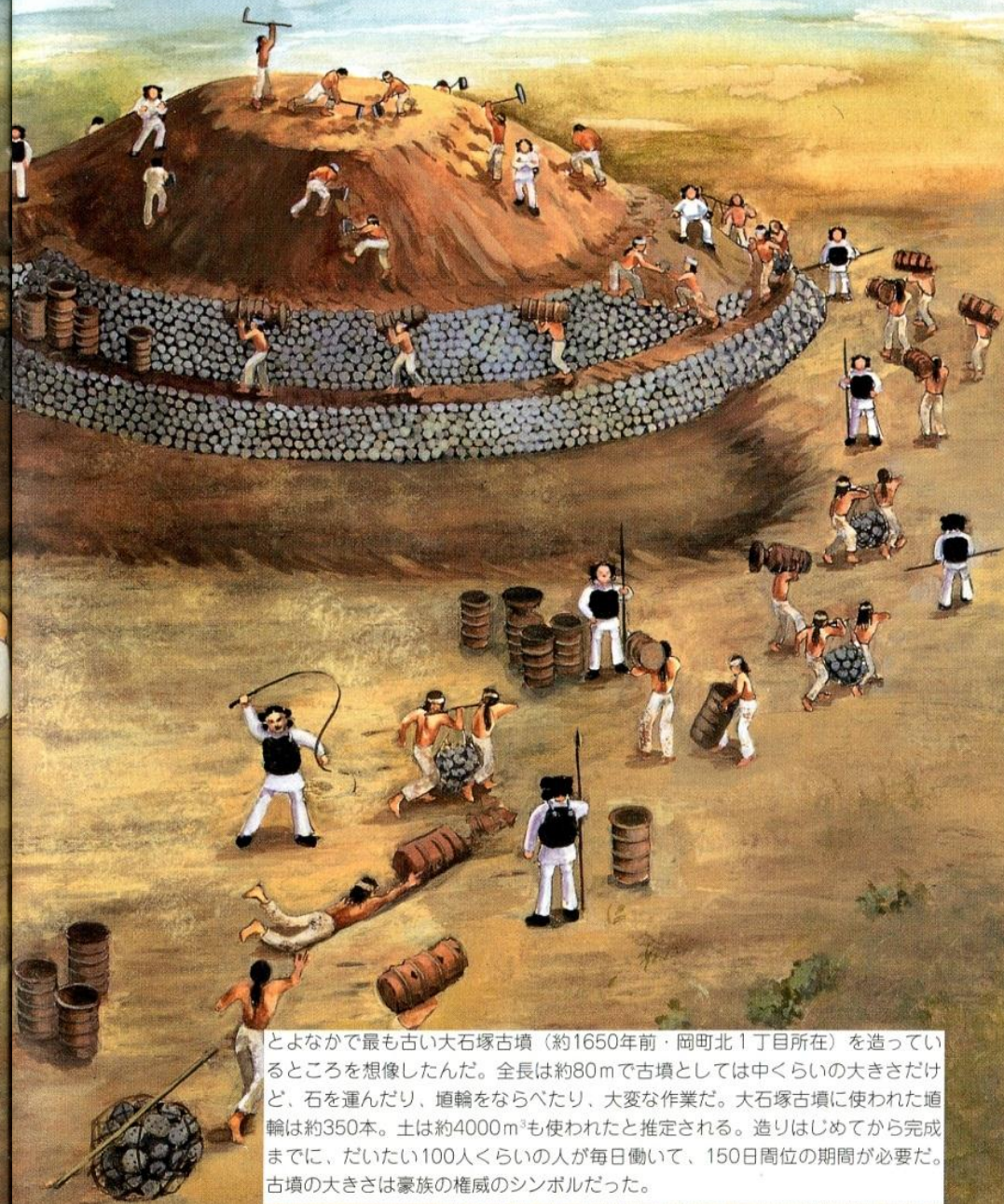
けんた とよなかの古墳の中では、どれが一番古  
いんだい？

やよい とよなかでは、中部の大石塚古墳と北部  
の待兼山古墳がまず最初に造られるわ。

けんた えっ！古墳が二つということは、豪族は  
一人じゃないのかい？

やよい 古墳時代の初めころは、とよなかは二  
つに分かれていて別々の豪族が治めてい  
たんじゃないかしら。

けんた ふん。二人の豪族はなかよくしてたの  
かなあ。



とよなかで最も古い大石塚古墳（約1650年前・岡町北1丁目所在）を造っているところを想像したんだ。全長は約80mで古墳としては中くらいの大きさだけど、石を運んだり、埴輪をならべたり、大変な作業だ。大石塚古墳に使われた埴輪は約350本。土は約4000m<sup>3</sup>も使われたと推定される。造りはじめてから完成までに、だいたい100人くらいの人が毎日働いて、150日間位の期間が必要だ。古墳の大きさは豪族の権威のシンボルだった。



# 大石塚古墳を解剖する



### 埴輪（はにわ）を並べる

古墳の平らな部分には円筒埴輪が並べられていた。円筒埴輪とは、お供えものを置く弥生時代の台をモデルに作られた埴輪なんだ。人や動物の埴輪が作られるのは、古墳時代の中ごろからで、大石塚古墳の時代にはなかったんだ。（前列左高さ約80cm）



### 葺石（ふきいし）

古墳は今でこそ木で覆われ森みたいになっているけど、斜面は子供の頭くらいの大きさの石で覆われており、造られた当時は遠くから見ると、白い小山のように見えたことだろう。



ほうふん 方墳

えんぶん 円墳

ほなたがいがたこふん 帆立貝形古墳

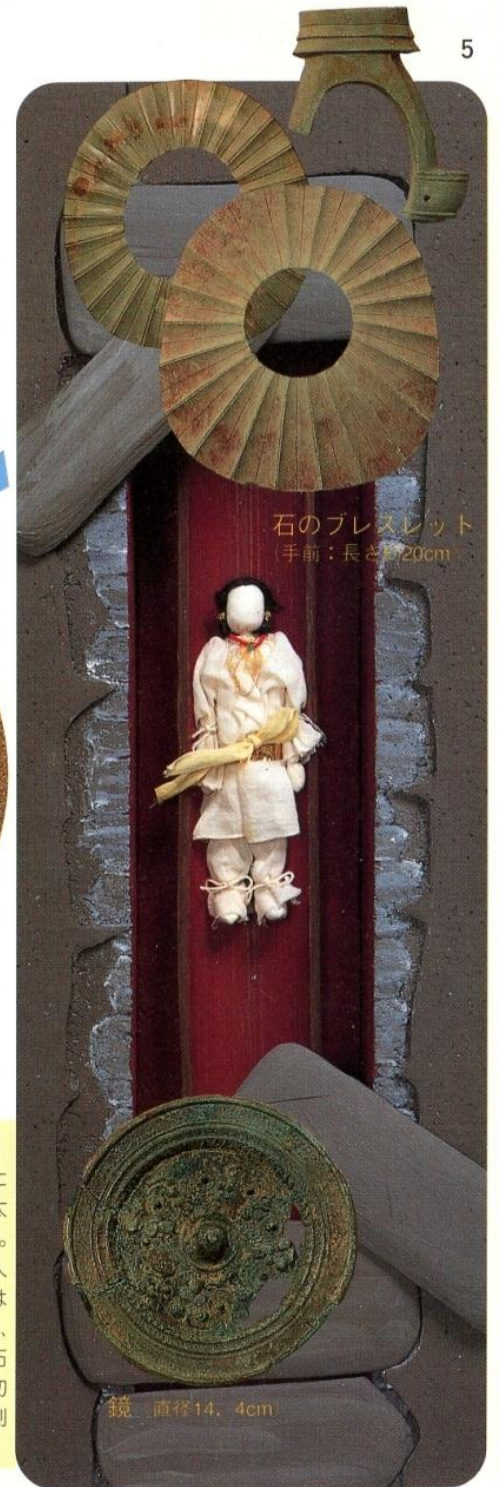
ぜんぽうこうえんふん 前方後円墳

### 古墳の形

古墳の大きさは、葬られた人の力の大きさを示し、形はその人物の性格を表すと言われている。勢力のある豪族は前方後円墳に葬られることが多い。

### 石室と副葬品

豪族は、ふつう古墳の頂上に葬られる。そこには、小さな板石を積み重ねた石の部屋（竪穴式石室）が作られることが多い。その石室の中に巨大な丸太をくり抜いた棺桶（割竹形木棺）がおかれる。棺の長さはおよそ6mくらい。棺の中には、豪族の遺体といっしょに、宝物・武器・アクセサリーなどが入れられるんだ（副葬品）。大石塚古墳の石室は調査されていないので、中身はまだわかっていないけど、大石塚古墳と同じ頃に造られた待兼山古墳からは、うな鏡や特別な石で作ったプレスレットが出土していて、大石塚古墳にもこのような副葬品が納められていると考えられる。古墳時代の初めころの古墳には、鏡やプレスレットのようなお祭りの道具と考えられる副葬品が多いんだ。

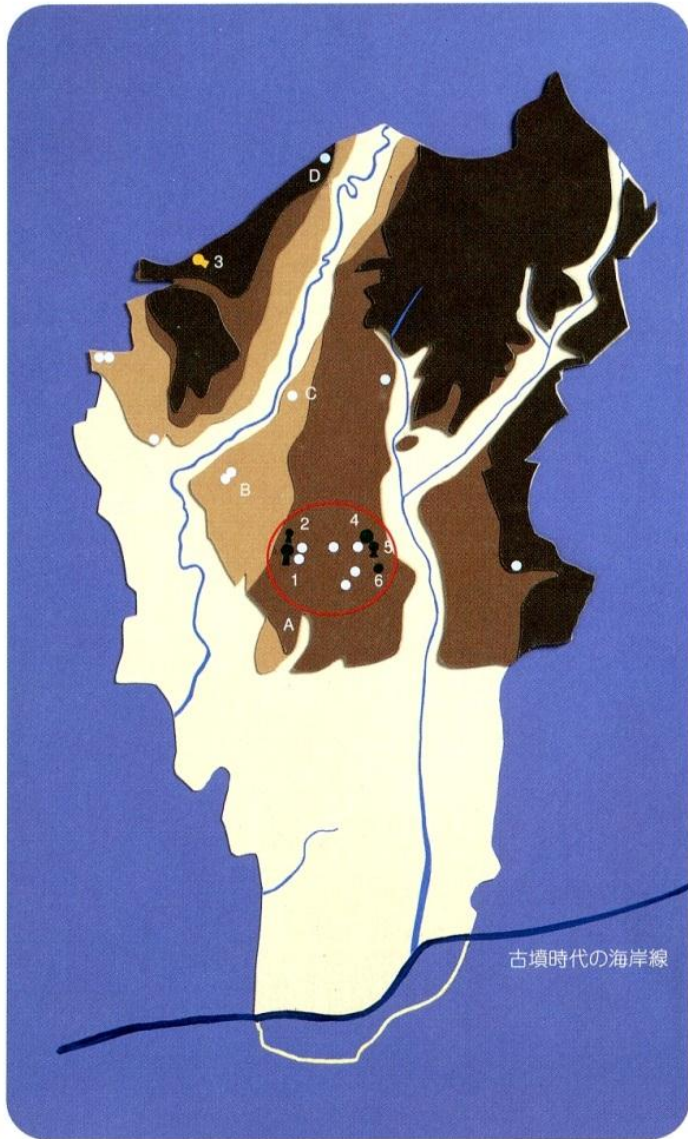


石のプレスレット  
（手前：長さ約20cm）

鏡 直径14.4cm



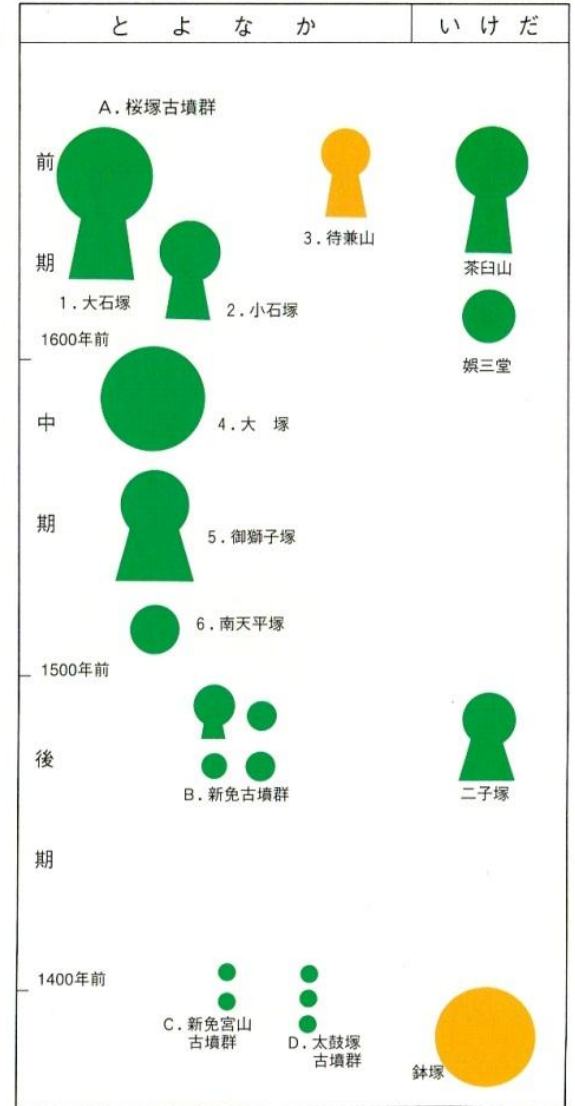
# うつり変わる古墳



とよなかの古墳の位置 (番号は年表に一致)

けんた やよい けんた  
 そんな大きな力をもった豪族って、いったいどんな人だったんだろう。  
 大塚古墳と御獅子塚古墳が発掘されて、いろんな副葬品が出土しているから...。  
 どんな豪族かわかるのかい？  
 だいたいね。鉄の武器がたくさん見つかったから、武人だったのじゃないかしら。次のページをみて！

けんた やよい けんた  
 やよい大先生、右の図はなんですか？  
 これはね、とよなか周辺の主な古墳を時代順に並べた表よ。  
 あれっ、中期になると、桜塚古墳群以外に古墳がなくなるけど、これはなぜだい。  
 それはね、桜塚の豪族が勢力を拡大して、池田や他のとよなかの豪族を自分の配下にしてとよなか周辺を支配したからじゃないかしらへく。桜塚の豪族ってすごいんだ。  
 このころ、とよなかの豪族の力がもっとも大きくなったのよ。



とよなか周辺のおもな古墳の年表  
 (黄色の古墳は、形や年代がよくわかっていないもの)



御獅子塚古墳第1の棺



よろい・かぶと

皮で作った盾



馬の鞍と飾り  
どこ部分かわかるかな？答えは第VI巻で。



かぶと  
金ばくが貼られ、光り輝く豪華なかぶとだった。



ホコ（長さ43cm）  
木の柄の先につけて、槍と同じように使う。



鏡（直径18cm）



刀（長さ80cm）



短剣（長さ35cm）



よろい・かぶと



鉄の矢じり（右端長さ10cm）

大塚古墳

### 大塚・御獅子塚古墳の埋葬施設と副葬品

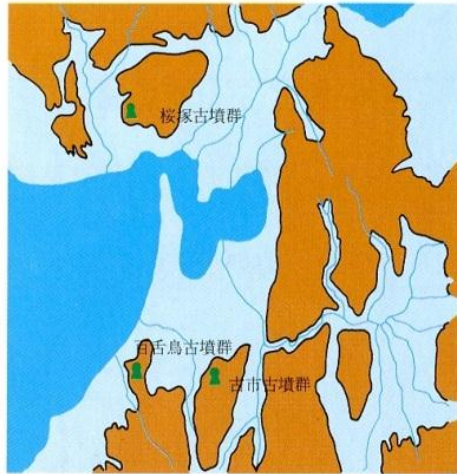
大塚古墳では石室を作らず、丸太をくり抜いた棺を粘土で包んでいました（粘土槨）。棺桶は合計3つ見つかりました。長さは、大きいもので6mもあります。木棺の中には、鉄の「よろい」や「かぶと」をはじめとするたくさんの武器や武具が納められていました。このことから大塚に葬られた豪族は、武人的な人物だったのではないかと考えられます。いっぽう、御獅子塚古墳でも、棺が2つ検出されました。第2の棺には人は葬られず、武器だけが納められていました。御獅子塚でもたくさんの武器が出土しており、軍事色の強い古墳であることがわかります。右ページの写真は、大塚古墳、左ページの写真は、御獅子塚古墳から出土した副葬品のほんの一部です。古墳時代の中頃になると、ふつうお祭りの道具より武器が多くなりますが、大塚と御獅子塚ではその特徴がきわだっていえます。

# 大塚と御獅子塚の武人

御獅子塚古墳第2の棺



# とよなかの豪族と大王



## 大王の勢力ととよなかの位置

大王の勢力の中心は、初め奈良にありましたが、古墳時代中頃になると、河内（古市古墳群）や和泉地方（百舌鳥古墳群）にその位置を移していました。



誉田御廟山古墳



とよなかの古墳



とよなかの古墳と大王墓の大きさを同じ縮尺（1/4000）でくらべてみました。（高さを50%強調しています。）



大王の墓・誉田御廟山古墳

長さは日本で2番目、体積は日本で1番大きい古墳。応神天皇の墓とされるが定かではない。（全長415m。羽曳野市所在）  
写真提供：羽曳野市教育委員会

けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた

大塚や御獅子塚古墳から出土したよろいやかぶとは大王からもらったものって聞いたことがあるけど。そうよ。大塚も御獅子塚も大王の墓とくらべるととても小さいけれど、二つの古墳から出土した武器は優れていて、数も多いのよ。大王がとよなかの豪族の兵力を重視していた証拠だね。そういうこと。でも、とよなかの豪族は大王の下で働いて、何か得なことがあるんかいな。そうね。とよなかの地を治めるために、大王の力を利用したんじゃないかしら。「フシには大王がついている。」なんて言ってるね。

## 大王から豪族へのプレゼント？！

奈良や河内・和泉の勢力は日本でもっとも権という一大勢力を作っていました。ヤマ各地の支配を強めようとしていました。と権とどのような関係があったのでしょうか。「よろい」の1つです。これは、大王から、かしとして豪族にプレゼントされたものだっています。また、9～10ページの「よろい」と、5ページの石のプレスレットも大王が豪族へ配られた品物だと考えられています。は、大王の本拠地に近いです、大王から好物をたくさんもらっていました。そのいとよなかの豪族は大王のために、兵隊を集めたり、貢ぎ物を納めたりしたのでしょ

強大で、大王を中心としてヤマト政ト政権はその勢力を日本全国に広げ、よなかの豪族は、そうしたヤマト政右下の写真は大塚古墳から出土した友好のあと言われや「かぶら各地のとよなかうした宝ぼうで、めて戦争う。



けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた

武人だったとよなかの豪族は誰とたたかったの？それはね・・・上の写真をみて。こりやまた大きな古墳だね。この古墳は日本で2番目に大きい古墳で、大王の墓と言われているわ。ええっ！じゃあ、大王と戦争したのかい。まさかあ。古墳の大きさをくらべてみてよ。大王にかなうはずないわ。んじゃ、どくゆこと？とよなかの豪族は大王の下で大王の敵と戦ったんだと思うわ。大王の敵って？中国の古い本に、大王が日本各地のクニと戦争し、それらをしたがえていったことが書いてあるわ。とよなかの豪族は大王軍の将軍の一人ってどこ？





### ムラ長の墓

直径または1辺10mくらいの小さな円墳や方墳が、蚩池や利倉周辺で見ついている。このあたりにあったムラの有力者の墓と思われる。ムラをたばねて、豪族に仕えていたのか？ちなみに、もともとは土が1~2mほど盛ってあった。

(上：利倉遺跡・利倉3丁目所在)

(下：蚩池北遺跡・蚩池北町1丁目所在)

ともに約1500年前



### ムラびとの墓

地面にぽこっとあいた直径45cmの穴。これが古墳時代の大多数のムラ人のお墓でした。副葬品もほとんどなく、質素なお墓でした。土塚墓といえます。

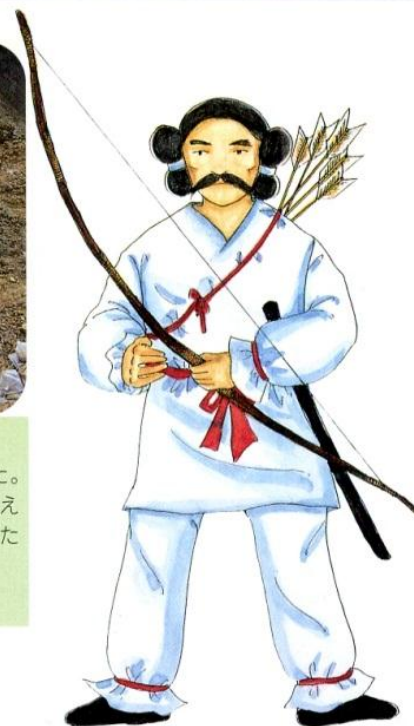
(蚩池西遺跡・約1600年前・蚩池西町所在)



### 豪族の部下の墓？

大塚古墳の隣から、一辺15mくらいの小さな方墳の一部が見つかった。この古墳には、豪族に仕えていた人物か、豪族の家族が葬られたと考えられる。いずれにしろ、豪族の活躍をそばで支えた人物が葬られていたのだろう。

(小塚古墳・約1550年前・中桜塚3丁目所在)



豪族のお墓はとも大きく、豪華だった。では、それ以外の人々はどのようなお墓に葬られていたのだろうか？今はもうほとんど残っていないが、とよなかには100基ちかくの古墳があった。このうち、ほとんどは直径(一辺)10mくらいの小さな円墳や方墳だった。こうした、小さな古墳には豪族の部下やとよなかの各ムラの有力者が葬られたと考えられている。いっぽう、ほとんどのムラびとは古墳を造ることなんてできなかった。ムラびとは、ふつう左下の写真のような穴ポコに埋められていたんだ。豪族の墓とえらい違いだ。弥生時代とくらべて、有力者とふつうのムラびととの差が大きくなったことが、よくわかる。(第IV巻「行きかう人びと」に、弥生時代のお墓について書いてあるよ。読んでみて！)



### 豪族のしんせきの墓？

大石塚古墳と小石塚古墳のまわりでは、2つの古墳を取り囲むように小さなお墓が並んで見つかった。古墳に並んでいる追輪をわざわざ引きぬいて、棺桶にしたんだ(追輪棺)。豪族のしんせきの墓かもしれない。

(小石塚古墳周辺・約1620年前・岡町北1丁目在)

# 豪族を ささええた人びと





### 豪族の倉庫を復元する

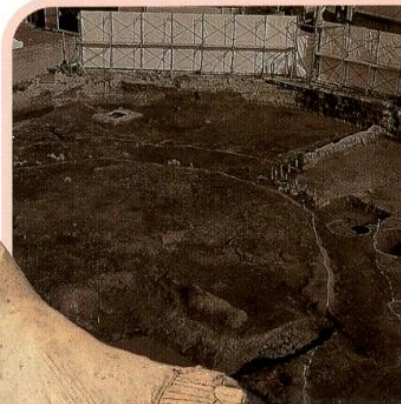
蛭池東遺跡で見つかった倉を想像してみたんだ。1辺10m・高さ12m。だいたい小学校の教室の1.5倍くらいの大きさだった。5800俵分のお米を蓄えることができる。こんな巨大な倉庫の跡が3つもみつき、とよなかの豪族の富が、いかに大きかったかがわかる。

# 豪族の倉庫

けんた うひゃ。この穴ポコは何だい？  
やよい これは蛭池で見つかった倉庫の跡よ。穴はその柱の跡ってわけ。  
けんた 弥生時代の倉庫とすいぶん大きさが違うね。  
やよい これは豪族のクラよ。治めているムラから、年貢を取り立てて、ここに蓄えたのね。  
けんた ふくん。ひとりじめなんてズルイなあ。







### 増える小さな古墳

古墳時代の終わり頃になると、小さな古墳がそれまで以上にたくさん造られる。これは、豪族に支配されていたムラびとの中に、富を蓄え、古墳を造ることができるくらいの力を持つ者が現れたからなんだ。左の写真は穂積遺跡でみつかった直径10mの円墳。この古墳からは、まわりの写真のようないろいろな形の埴輪が出土した。

(約1500年前・服部寿町1丁目所在)



盾形埴輪 (高さ85cm)



ニワトリ形埴輪 (高さ27cm)

頭がないのが少し残念。

### 古墳がなくなる時

約1400年前を境にして、とよなか周辺では大きな古墳だけでなく小さな古墳も造られなくなる。とよなかだけではない、全国的に古墳はなくなっていく。この理由はなんだろう。ひとつの理由に、大王を中心としたヤマト政権の力がさらに巨大になったことがあげられる。ヤマト政権の全国を支配する制度が整い、ヤマト政権が各地を直接支配ようになった。その中で豪族は一地方の役人となってしまい、権威と身分のシンボルであった古墳を造らなくなってしまったのだ。そのいっぽうで、大陸から仏教文化が新たに伝わってきた。古墳にかわって、新たな権威のシンボルとして各地にお寺が造られはじめるんだ。

### 横穴式石室

右の写真は横穴式石室という、新しいタイプのお墓なんだ。これまでは、1つの古墳に多くても2、3人の人が葬られるだけだったが、この種の古墳には、遺体を置く部屋と、それに続く通路と入り口があり何回でも人を葬ることができる。手前側が入り口で、奥の石敷の上に棺を置いた。古墳時代終わり頃に大流行する。(中井山3号墳・石室の全長6.4m・約1400年前・永楽荘付近所在。現在、桜井谷小学校に移築。)



やよい 隆盛をほごったとよなかの豪族も一五〇〇年前になると、力が衰えて大きな古墳を造らなくなるの。(七ページの表を見てね。)

けんた それは、どうして?

やよい うくん、今度は池田の豪族が力を盛り返して、池田の豪族が大きな古墳を造るようになったから、と考えられているわ。

けんた それは、ちょっとくやしいな。それにしても、弥生時代とはすごい違いだね。大王がいて、豪族がいて……

やよい そうした豪族をささえたひとびとの暮りぶりや技術も大きく変わったのよ。

けんた 次のことを知りたいな。

やよい じゃあ、こんどはそれを調べてみましょう。



### とよなか最後の前方後円墳

新免古墳群で見つかった約1500年前の前方後円墳。全長約23m。ホントは2~3mくらい土が盛ってあったんだけど、見つかったときは平らだった。これを最後にとよなかでは大きな古墳は造られなくなる。右はこの古墳から出土した武人埴輪(高さ約75cm)。この古墳の主で、とよなか最後の豪族の姿かもしれない。(末広町3丁目所在。)

